

【熊本公德会賞】

みんなのどうぶつえん

上天草市立中北小学校 1年 宮崎 彩未

くまもとにあるどうしょくぶつえんは、わたしもいったことのある大すきなばしょです。

くまもとじしんがあったとき、どうぶつえんでは、水がでなくなったそうです。しいくいんさんたちは、まい日、水をくみにいきました。わたしは、しいくいんさんがどうぶつたちをもっと大きくしてやりたい、子どもたちがどうぶつえんをもっとすきになってほしいとおもって、いっぱいがんばったんだなおもいました。

そして、しいくいんさんたちは、『ふれあいどうぶつえん』をはじめました。しいくいんさんたちは、大へんなのに、子どもたちみんなのためにやっているから、やさしくていいなとおもいました。子どもたちが、どうぶつをさわったり、だいたりして、えがおになりました。子どもたちからの手がみをよんで、しいくいんさんはとてもうれしくなったのをしって、わたしもうれしくなりました。しいくいんさんが、みんなのためにはたらくことで、みんなもえがおになるし、しいくいんさんも、えがおになるんだなおもいました。

ことしのなつやすみに、かみあまくさでは大雨がふりました。わたしのいえは、だいじょうぶだったけれど、お父さんから、

「アロマがたいへんなことになっている。」

とききました。しゃしんを見ると、よくあそびにいていた『そうごうセンターアロマ』がプールのように水びたしになっていました。大すきなばしょが、どろ水でよごれてしまっていて、むねがいたくなりました。そして、お父さんが、

「なにかできることはないかな。」

とはなしていました。わたしも、まわりの人のためにうごくことができるような人になりたいとおもいました。大せつなばしょである『アロマ』が早くもとにもどれるようにねがってます。